

「新潟市子ども・子育て支援事業計画」基本理念に関するご意見

平成26年2月7日（金）開催

平成25年度第3回「新潟市子ども・子育て会議」にて

No.	ご意見
1	<p>○働きながら子育てをされている方が大勢いて、その働き方について、例えば母親が勤務中に子どもが病気で帰らなければならないという時に、周りの人がどれだけその母親の仕事を補ってやれるかというのがすごく大きい。誰もが自分の子どもが病気の時にそばにいてあげたいが、その日代わってあげられる、それが普通にできる職場・働き方が大事だと思う。病気の時にどれだけ子どものそばにいられるかというのは、すごく大きい。帰るのが辛くて、仕事を辞める場合もある。誰もが安心して働いて、自分の子どもの具合が悪い時には、子どものそばにすることが当たり前ができるような職場環境になればもっと子育てしやすい。</p>
2	<p>○新潟市青少年健全育成協議会では、全市をあげて1つの目標を決めようということで「地域の子どもは地域で育てよう」というキャッチコピーを掲げ、現在も遂行していると思う。今は子育てが難しい時代なので、地域の力を子育てにもぜひ発揮してもらいたい。</p>
3	<p>○キャッチコピーについては、日本一子育てしやすい都市（まち）を目指すというような言葉があちこちで見かけられるが、ニーズ調査の子育て環境の満足度を見ると普通（3）に届かない現状がある。</p> <p>○少子化が進行する中、子どもを育てる楽しみが味わえるような環境を作り出していかなければいけない。地域でも支援しようというのが民生委員の立場であるが、地域に人がいない状況が出てきているということから、ほかの人たちの働き方などを考えていく必要がある。</p>
4	<p>○昔に比べて今は大変子育てしにくい時代とは思いますが、日常生活支援事業の利用者のマナーが良くないという問題があるなど、自分の子どもを自分で育てることについて親の意識も低くなっていると感じることがある。</p>
5	<p>○すこやか未来アクションプランの基本理念からは、根拠となる法律が変わっているので、その内容についてはもう一度精査すべき。特にすこやか未来アクションプランは「次世代育成支援対策推進法」という法律に基づいて作られているので次世代育成支援という言葉が随所に出てくる。「次代を担う」というキーワードが出てきているのですが、今回の子ども・子育て支援法は、子どもが次の時代を担う存在だから育てていかないといけないという視点ではなく、あくまで子どもの生活であったり安全であったり福祉であったりということを考えながら、では社会や親がどのように支援していく仕組みを作っていくかという形で理解されるので、それをふまえた文言を考えてほしい。どこかに直接この言葉を入れるかどうかは別にしても、「子どもの最善の利益」という子どもの権利条約でうたわれているところが入るといいかと思う。</p> <p>○子育ての支援の向上に向けた3つの支えあいというものがあるが、最近、地域福祉では「共助」（共に助ける）について、最近地域社会における相互扶助を「近助」（近くで助ける）として、「共助」の中に「近助」と「共助」で分けて考えていく必要があるという話があることを聞いた。「地域の子どもは地域で育てる」という観点から、盛り込まれると良いかもしれない。</p>
6	<p>○すこやか未来アクションプランの基本理念とは、少し変えたほうがいい。「社会全体で考え支え</p>

	<p>るまちづくり」というふうに入りに「支えていく」という部分を入れていかなくてはいけないと思う。本当に親だけで子どもを育てるという時代ではないので、やはりもっと子育て現場、または企業・地域・教育現場、様々なところで支えていかなくてはいけない。それぞれの立場で考え支えていくという意味で「子どもたちの夢のある未来のために社会全体で考えて支えていくまちづくり」というような文言をぜひ入れてほしい。</p> <p>○キャッチコピーは、「日本一子育てにやさしい都市（まち）」とあるが、これをぜひ「新潟市」と入れていただきたい。日本一子育てに優しい新潟市になるためにはどうしたらいいのかというのを、子育て支援現場にいる私たちも考えていかなければいけないし、日本一というのはとても大きなことだと思うが、それ考えて続けていくということだと思う。また、キャッチコピーがあるといういろいろなところに情報発信していく中で、他県の方にもわかりやすく説明することができるので、ぜひキャッチコピーというのは続けてほしい。</p>
7	<p>○すこやか未来アクションプランの基本理念とは、同様というより継承してほしいと思う。新しい内容・理念で作られているからである。地域保健の領域では今ソーシャル・キャピタルということが言われている。子育てというのは、1つは子どもが真ん中というチャイルドファーストがあり、2つ目は子ども・子育て支援そのものがまちづくりであるということだと思う。そういうものをソーシャル・キャピタルに立脚して進めていくという意味で捉えれば、すこやか未来アクションプランは既に今の考え方を先取りしていたような気がする。子ども・子育て支援がまちづくりというのは、要は住みたい・産みたい・育てたいまちづくりということなのだと思う。</p> <p>○社会全体で取り組むため、キャッチコピーは必要だと思う。現在のキャッチコピーも継承していただいて十分だと思うが、現在の基本理念の「子どもたちから広がる育ちの輪を未来につなぐまちづくり」というのは素晴らしいと思う。社会全体で育てるということや、「子育て支援はまちづくり」というような意味をこのキャッチコピーは内包しているのではないかと意味で捉え、継承する方向で考えて良いと思う。</p> <p>○すこやか未来アクションプランを継承していただければ、あとは全体の計画の概要や解説書や広報用のパンフレット等の中でさらに理念を具現化したものを随所に散りばめていくような啓発活動はこれから後ほどの進行過程の話につながると思う。</p>
8	<p>○キャッチコピーを作ることに賛成。子ども・子育て支援というのは、内容だけではなく「社会全体で」というのが絶対に大事なことなので、例えばバッチのようなものとか、いろいろなところで露出してとにかく注目してもらうことが必要。</p>
9	<p>○すこやか未来アクションプランの認知率が6.9%ということで、発信していくということである努力はしていたと思うのですが、今度の計画ではもっと子育て中の人たちに知ってもらうような方法で、キャッチコピーも1つの方法と思うが、発信をしていってみんなに理解を求めてもらえるといい。</p> <p>○今の若い母親は、子育てを楽しんでいる人と仕事が忙しくそこまで余裕が無い人と多種様々であると思う。「仕事と家で子育てをどうしていいかわからない」という人に、保育園なり周りの人たちなりに相談ということができると思うが、もっと相談する場所を知ってもらうことが必要。例えば、障がい福祉施策では、「どうしたらいいかわからない」と思った時に、コーディネーターの方が一人一人付くということになっていて、コーディネーターの方にいろいろと相談ができ、またコ</p>

	<p>ーディネーターの方が何ヶ月に1回訪問してくれる。そういう1つのプランみたいなもので安心してその方に相談できる。「この方なら相談できる」という関係をたくさんお母さん方に作ってほしい。</p>
10	<p>○認知率について、せっかくいろいろ時間と人間の知恵を裂いて良いことをまとめても、結果市民に浸透して具体的に意識が高まらなければ意味がない。ぜひ今回のこの支援事業計画については広く一般市民に浸透・普及して大きな効果が上がるような、そんな措置もぜひ考えてほしい。</p> <p>○子どもというと0歳から18歳までであるが、保育という分野はこれを利用する最終的な利用者は子どもであるが、子どもが保育園や幼稚園を選択するわけではない。選択者は保護者だが、最終利用者は子どもであるという、独特の特性を持っているということに十分配慮しなければいけない。新潟市のこういったことに対して子どもなりの視点で考えがあるかもしれないので、就学前あるいは小学校・中学校、特に高校生の段階なら意見もあるわけですから、真面目な意見を吸収するようなことがあっても良いかもしれない。我々は「子どもの最善の利益」という言葉をよく使うが、安易にこの言葉を使ってはいけないと思う。本当にいろいろな施策が子どもの最善の利益を本当に考えているということを実体化しなければいけない。この言葉を安易に使わず計画の中でも重く受け止められるような運び方が良いのではないかと思う。</p> <p>○保護者が子育ての第一義的責任を有するということについて、直接的に第一義的責任を有する保護者が一生懸命頑張ることによって、さらに保育関係者も頑張ることによって、二重三重の効果が得られるので、保護者が第一義的責任を有するということを大きく、わかりやすく伝えるような内容を盛ることができれば良い。</p> <p>○キャッチコピーについてはもちろん効果があると思うので良いと思うが、今出ている「日本一子育てに優しい都市（まち）」の「日本一」という言葉ではなく、もう少し具体的に、そしてまた当面の課題、直近の課題、手を携えて取り組むことができる身近な課題と受け止められる表現が良いのではないか。</p>
11	<p>○地域で子どもを育てようということについて、以前から子どもを持っている家庭を、地域に呼び込んで住んでもらおうということを進めておりが、なかなかそうはいかない。地域でもって育てよう・見守ろうと思っても、本当に子どもが少なくなっている。</p> <p>○元気なまちというのは子どもたちが知らない人たちに挨拶している。学校の先生にはぜひ子どもたちには大人にも挨拶をしてもらいたいと、大人もちゃんと挨拶をしているので、そういうことを教えてほしい。</p> <p>○キャッチコピーは重要な役目なのでこれから新しいものを考えたら良いのではないか。「新潟市」という言葉はぜひ入れてほしい。新潟というのは子育てしやすいまちで、行政も、一生懸命やっているはずなので、そういうことをもっとPRしたほうが良いと思う。それから「安全で楽しく子どもを育てるにはぜひ新潟に来てください」というようなコピーを作って、自信を持って前向きに進んでほしい。</p>
12	<p>○認知率について、どんなに素晴らしいものを作っても広がらないことには、企業で言えば、その事業は閉鎖。もっと民間の企業の人たちに協力を求めても良いと思う。とても良いことだし企業にとっても、これから子どもたちが増えていかなければ未来がない。働き手もない。そうなるのは社会全体が困るわけだから、もっとそういう声を発信しても良い。協力してくれる人たちはた</p>

	<p>くさんいると思う。</p> <p>○子育てをされていて子どもが病気になって大変なことは経験してわかっているが、企業としてはそこで仕事を急に抜けられ、それを補充する方法が無いとなると、大変困る。そういう時に重病でなければ、お母さんではなくても、そういう支援の輪を作ってすぐにお母さんが行けなければ誰かが代わりの人が行ってくれるとか、そういうことを当たり前のようにできる世の中にしていく必要がある。どんなに立派なことを言ってもそれぞれ利害があるわけで、皆で子どもたちを育てていかないと本当にこれからの時代とても厳しい時代で、母親の仕事も多種多様になっており、少しずつそうやって「皆が助け合おう」という形にしていけないとこれは難しい。</p>
13	<p>○すこやか未来アクションプランの基本理念において、役割と連携のところ、「家庭・学校・地域」という形で、「家庭」はありますが、「子育て」という視点が無いかと思う。今回、国が基本指針を定めるにあたって示した資料をみると、この子育てという視点が今まで少し足りなかったと思われる。</p> <p>○「子どもの最善の利益」を強く打ち出していくというところも大切だと思う。</p> <p>○国の資料では、「親自身は周囲の支援を受けながら子育て経験をするを通じ、親として成長していくものであり、親育ちの過程を支援していくことが必要」、「保護者は子育てについて第一義的責任を有する」、「3歳以上の幼児期は知的・感情的な面でも人間関係の面でも急速に成長する時期であり、この時期の教育の役割は重要」など、子育てしていくところでとても重要なことが書かれているので、すこやか未来アクションプランからプラスしてこの考え方を乗せていってほしい。</p>
14	<p>○子育てをしている中で、社会の支援を実感している一方、それでも足りないという思いがあるのも現実だと思う。今までの社会は「子どもを産むのは自由であり、同時にその責任は自分が取りなさい」という感覚だったが、今は様々な問題があり「結局は責任を取りきれないから産みきれない」となってしまってそのまま少子化という流れの中になっている。アンケートの中からは「本当は結婚もしたいし子どももたくさん産みたい」という若者がたくさんいるのに生めない社会になってしまっている。子どもを産みたい人が産めないということが大きな問題なのだとすることを最初にしっかり指し示してから、そのためには子どもが社会の皆さんに助けていただいて育てられる環境にしなければ若者たちは産めないのだから、そのための政策をしっかりとやるべきという段階に戻し、最後に、そのための具体的にはどういったことをやっていかなければいけないかということを考えていきましょうという、最上位にある社会への必要性をしっかりと定義することが必要。</p> <p>○民間企業の側からしたら、確かに長い目で見れば子どもがいなくなれば困るが、今働いている人が休まれたらもっと困る。それを「どちらがいいか」という状況で社会が動いてしまっていると思う。そこにもう少し企業の方々にもメリットがある、「この政策によって企業を助けるから子育てしている人たちを助けてあげてください」ということや、地域についても、「地域が子育てを助けてくれるから子どもは育つから、我々が今度は行政として子育てをしている地域の方々をきちんと支えています」という「自助・共助・公助」の層、その公助の一番トップの位置にあるのが新潟市における支援事業計画なのだという層をしっかりと指し示すような形で基本理念を作ってほしい。</p>
15	<p>○子どもを育てる方が資料読んで「そうだな」「私はどこに当てはまるな」ということはない。子育てをされていてふと振り返ると「なんか子育てしやすいな」という環境を作っていくのが本来だと</p>

	<p>思う。</p> <p>○SNS、フェイスブックやツイッターを使うだけでも認知度が違うと思う。たとえば水族館や食育・花育センターなどで、「これはアクションプランに則って発信しております」と流れるだけでも、こういうもので私たちは守られているのだと感じると思う。</p> <p>○キャッチコピーは、コピーライターなり広告代理店なりを上手く使って、そこから委員が選ぶという形が良いのではないか。</p>
16	<p>○合計特殊出生率とか人口の維持という話は、子育てしている親にはほとんどどうでもいい問題なのだろうなという気がする。行政はいわゆる社会としての条件づくり・環境づくりというところで、行政が担うものとして頑張っているということだが、あまりにも子育てが社会化しすぎて、逆に社会化になったことによる弊害がもしかしたら出てきているのではないかという印象もある。親の生きづらさと子どもの生きづらさが必ずしもイコールとは言えないこともあるのではないかと思う。あまりにも親の支援をし過ぎることによって逆に子どもが主体では無くなってきて、親主体の政策とかサービスになってしまう。その影で子どもたちは逆に生きづらさを感じることもあるかもしれないという視点をどこかで持っていないといけない。この計画自体は子どもと子育て相互に主体になっていくような2つの視点からの計画だが、ぜひ本当の意味での計画として家庭や家族が豊かになる、楽しくなるというところに結びついていくような計画にして、そこに向かっていくという視点を持たないと、あまりにも親主体になったらその影では実は子どもたちがすごく寂しい思いをしたり、それが10年後20年後に、親たちは一生懸命いろいろなサービスを使っていたのだけれど、子どもにするとあまりにも社会化されすぎて親と関わる時間が無くなって他人からいろいろな支援を受けて、親子の関係が希薄になっていたという弊害も出てくる不安も感じる。そういうところも大事な感性として持っていけないといけない。</p>
17	<p>○子育てを始めた時に「育児は『育自』(自分育て)」という言葉を目にした。親育てのほうにも力をもっと入れてほしい。また、今親になっている世代だけではなくて、これから親になっていく子どもたちにも学校教育などを通じて親になることを考えて教えていく必要がある。基本理念としては子育てで周りの親や地域も育てていくという考えを入れてほしい。</p> <p>○キャッチコピーについては、あったほうが良いと思うが、「日本一」という言葉は新潟市に住んでいてピンと来ない。もう少し現実的なキャッチコピーを作ってほしい。</p>
18	<p>○子育てを始めて3年半、その間に様々な支援が受けられるようになり、様々な施設ができ、充実しているように思えるが、夫の帰宅時間は変わらない。父親が少しでも早く帰ってくるだけで家の中がすごく変わる。子どもにとっては保育園も大事だし、支援センターも大事だし、食育・花育センターや、水族館などはとても大事なことだとは思いますが、一番大事なのはやはりお父さん、お母さん、きょうだい、家族だと思う。もしそんなことを言ったら行政が差し出がましいとかそういうことになるかもしれないが、例えば「お風呂に一緒に入る時間にはお父さんが帰れるまち」のようなことがあれば、虐待なども減り、「子育てが楽になってきたかも」「楽しいかも」と思えるのではないかと思う。親の責任も感じられる。雇用主側からは、「そんな馬鹿なこと」と思うかもしれないが、大事なことではないかなと感じる。</p>

	<p>○事情で一時預かり保育や周囲の方に預かってもらうことができなかつたとき、夫の職場で子どもの面倒をみてもらい、すごく暖かかくてほっとした。子ども連れで働くことができる職場があってもいいのではないかと思う。</p>
	<p>○保護者としても、ただ支援を求めたりするだけではなくて、もっと社会の中で子どもたちを育てているのだという自覚と誇りを持たなければならないのだなということを感じた。専業主婦として、子どもを見てきて、子どもが健やかに成長していくさま、学びの音は、すべて生活の中にあると常々思う。子ども自身は本当に自分たちで生きる力を持っていると思っている。資料を読んでいて最後の助け合いの機能の多くが外部化されているということが書かれている。例えばニーズ調査の中で周囲に子どもの預け先が無いと答えている保護者がたくさんいると思うが、そういう方の中にも週にいくつも習い事をさせたりして自分の時間ができている保護者もたくさんいると思う。そうすると私たち母親・父親は一体何を子どもたちにしてあげられるのかということをしごく考えさせられる。やはり子どもが生活する時間として家庭をもっと大切にしたい。</p>
19	<p>○基本理念の考え方は、現行計画とは、根拠法が変わってきているので子ども・子育て支援新制度の基本方針によったものとしたほうがいい。</p> <p>○社会全体で取り組むことということから、キャッチコピーについては、現在ある新潟市のキャッチコピーはどれほど周知されているものなのか、一般の市民はどれほど知っているのか、地域の方がどれくらいわかっているかわからないので、安易に変更したほうがいいのかというのは言えないのですが、認知度がもしわかればそれによって認知が低いのであれば新たな、暖かいキャッチコピーに変えればいいのか。</p> <p>○アクションプランの認知率が低いということに関して、今回のこの計画を立てた後に、このような認知率になってしまわないよう、まず委員として私もできることをしていきたい。すこやか未来アクションプランの時も委員だったが、その際にアクションプランを周知したかと自分で考えた時に、あまり周知したことがなかったという現実がこの認知率につながっていると思う。今度の計画に関しては特に社会全体で子育てに取り組むということを見ると、共助の部分もかなり層を厚くしていかなければいけないと思うので、この計画の基本理念の周知方法をまずこの委員の中で一緒に考えて、そして一緒に行動もしていきたい。</p>
20	<p>○どういう媒体を使うかは別として、必ず市民に伝わるような形で広報していかなければならない。その中に出てくるのが幼稚園であったり保育園であったり小学校であったりするかもしれないし、病児保育の様子かもしれないし、ひしのみ園での様子かもしれない。あるいは企業が家庭の日に協力してお父さんが早く帰っている様子かもしれないし、そのお父さんが食育・花育センターで子どもと一緒に遊んでいる様子かもしれないけれど、そういう様々なものの中にこの子ども・子育て支援事業計画が散りばめられながらも周知されなければいけない。</p>